

朝日新聞 2010(平成22)年2月3日(水) 佐賀版 ぶらりミュージアム

2月3日

水曜日

11版

第2佐賀

佐賀 22

# ぶらり ミュージアム

県立博物館・美術館

鼓の胴のような不思議な形に、宝珠が三つ、紫色のひも飾りをつけた不思議な燭台。透かし彫りから下の金色が鳥形に浮かび上がって見えるという技巧も見事です。

底部には「大正十四年正月／石田英一作」と彫銘のある大作。「鉄鋳起三寶燭

石田英一作「鍛金・三寶燭台」

見事な技巧  
パリ万博に出品

臺」の箱書きに、パリ万国装飾美術工芸博覧会に出品、グランパレー階下に展示されたと記録にある「鋳起鐵燭臺」（出品高1万5千フ）が、「実はこれか」という大発見をもたらしました。

金工家・石田英一（1876～1960）は、佐賀藩士を父に東京で生まれ、少年期を佐賀で過ごしました。東京美術学校で学び、後同校教授となり、画家岡田三郎助らと文展、帝展で活躍しました。久米桂一郎や岡田三郎助とともに、佐賀美術協会展の設立も応援しています。

開催中の特別展「近代との遭遇」の博覧会部門に刺激されて、県立博物館の「佐賀県の歴史と文化IV」（3月14日まで）で展示中。

（県立博物館・美術館）  
学芸員 宮原香苗



大正14年(1925)作／鉄・真鍮の鍛造／径24.3フ、高さ54.2フ／  
 県立美術館蔵／石田尚豊氏寄贈

佐賀市城内1の15の  
 23。電話0952・24・  
 3947。バス停「博物  
 館前」下車、徒歩1分。  
 開館は午前9時半～午後  
 6時。月曜（祝日なら翌  
 日）休館。